

1. 研究課題名：可塑剤・難燃剤の曝露評価手法の開発と小児アレルギー・リスク評価への応用

2. 研究代表者氏名及び所属：

岸 玲子 （北海道大学 環境健康科学研究教育センター）



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

合成化学物質の生産量増大に符号するようにアレルギー疾患の増加が問題になっている。本研究では、プラスチックに流動性をもたせる可塑剤、燃焼から守る難燃剤であるフタル酸エステル類やリン酸トリエステル類に着目する。

環境サンプリング手法と尿中代謝物の分析手法を確立する。地域の小学生を対象に環境中濃度と尿中代謝物およびアレルギーのリスク上昇の影響を、出生コーホートを用いて胎児期曝露による児のアレルギー発症への影響を明らかにする。

フタル酸エステル類・リン酸トリエステル類の毒性及び曝露実態に関する基礎データを提供し、代替製品使用や規制導入の必要性について科学的根拠を示すことが可能になる。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 可塑剤・難燃剤の環境曝露評価および尿中代謝物測定による生体曝露評価手法の開発
（中央労働災害防止協会・大阪労働衛生総合センター）
- ② 学童を対象とした可塑剤・難燃剤曝露による小児荒れる義-のリスク評価（北海道大学
環境健康科学研究教育センター）
- ③ 胎児期立ち上げコーホートを用いた可塑剤・難燃剤曝露によるアレルギー発現リスク
評価（北海道大学 大学院医学研究科）

6. 研究のイメージ

